



地元とシェアハウス住人が協力! 活気と笑顔溢れる植栽活動

5月25日(木)、本年から花苗配布団体となった仲井唐沢組の皆さんと、大字玉川にあるシェアハウス“まちなか”の入居者が協力し、町から配布した花苗150本を植栽しました。参加者が支柱と糸を使って綺麗に一行に植えるなど知恵を出し合い、苗の間隔、色の順番などを話しながら和気あいあいと活動しました。団体代表の高橋さんは「花苗の植栽の他にも『まちなか』と協力して様々な活動をしていきたい」と今後の活動への意気込みを語りました。



協力して植栽する皆さん。



写真説明

札幌の高校生ボランティアが ときがわ町に土のうを寄附

ときがわ町では、7月12日から13日にかけての大雨により、町内で多くの浸水被害や土砂災害による家屋の被害が発生しました。それを知った、札幌の高校生ネットワークBLOSSOMの後藤優太さん(16歳)。「大きな被害に立ち向かっている皆様に、何かできないか」と考え、土のう袋の支援をときがわ町に提案してくれました。

7月25日(月)には20枚の土のう袋が到着。受け取った土のう袋には、そのすべてに手書きの応援メッセージが記されていました。同封されていた手紙には、土のう袋を高校生がみんな準備している様子の写真と、町を応援したい気持ちが丁寧な文章で書いてありました。いただいた土のう袋と手紙は、9月末頃まで生き生き活動センターで展示し、その後、災害現場等で活用する予定です。



写真説明

ときがわ町民活躍の授業開催 越生高校「9限目の教室」

6月23日(木)、越生高校で総合的な探究の時間に行った「9限目の教室」。実際にはない「9限目」という名前は、教育課程上で当てはまらない自由さを示しています。越生高校の岩崎望先生が中心となり、ときがわ町で小売店を運営する地域コーディネーターの岡野正一さん・亜希子さん夫妻が協力して実現。さまざまな仕事を持つ講師を招き、生徒に「本物の体験」をしてもらうことで、進路の参考としてもらうことを目的としています。この日は、ときがわ町で養老牧場を運営する鈴木詠介さんを講師に招き、「馬を仕事にする」ことについて講義を行いました。

仕事に関する本物の体験をすることが目的のため、生徒自身も授業の運営に参加することができます。ときがわ町からは、北村舞冬さんと太田亜寿さん(ともに大字番匠)が授業の運営に参加。太田さんは、「授業に携わるのは今回が初めてなので緊張しました。授業を作る大変さ、厳しさがわかりました」と話してくれました。

「9限目の教室」は、通年で行われる予定です。



①鈴木さんが行う講義の様子。②授業を運営した太田さん(写真左)と岡野正一さん(同右)。太田さんはこの日、照明係を務めました。



写真説明

「社会を明るくする運動」で 総理大臣のメッセージを伝達

7月1日(金)、第72回社会を明るくする運動伝達式が行われました。社会を明るくする運動は、すべての国民が、犯罪や非行の防止と犯罪や非行をした人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、安全で安心な明るい地域社会を築くための全国的な運動です。

本伝達式では、岸田文雄内閣総理大臣からのメッセージを、小川地区保護司会ときがわ支部長の児玉敦彦さんが渡邊町長へ伝達されました。



メッセージの伝達をされた児玉さん(写真右)と渡邊町長。



写真説明